

## 明治二十二年代「浜脇村」史料と議員名録

友 永 昌 紀

別府史談会に参加させていただき、自身が浜脇出身ということもあり、過去へ遡りながら研究の為に様々な文献を読み漁っているが、意外にも史料が少ないことに驚かされた。

その中でも特に明治中期以前のもは非常に乏しく、多くの先生方が長年に渡って調査、研究の上刊行された文献は大変貴重なものとなっている。

素人研究でありながら、こういったそれなりに、それらしい記事を書くことが出来るのも素晴らしい参考文献、史料があるからこそである。記して残し、伝えていくことがいかに大切なことであるかをいつも教えてくれる。

研究を続ける中、一年程前にちよつと気になる史料を見つけた。既出のものでもあまり見る機会がないので、記しておきたいと思う。

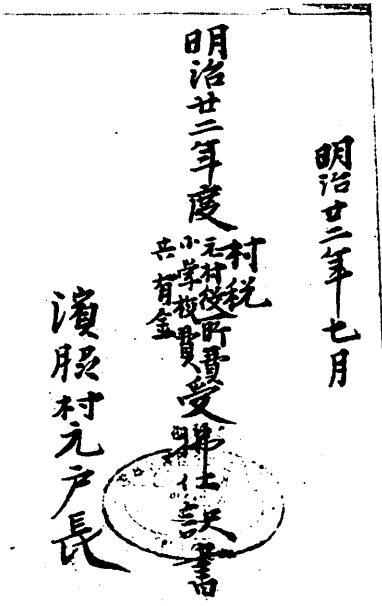
表題にある浜脇村の村会議員であるが、別府村に関しては議員名簿という形式で残っている為、時折見かける。一方浜

脇村に関してはあるのかもしれないが未だ明確といえる正式な名簿に自分は出会えていない為、もしご存知の方がいらつしゃれば是非とも御教授いただきたい。

これから御紹介する史料がその浜脇村の村会議員名簿らしきものを含むものである。くずし字での記録の為、古文書など全く読めない私にとっては判読が困難極まりないものであったが、辞典を片手に頑張ってみた。間違いも多々あると思われるが調査結果をありのまま記したので誤判読にはどうか御指摘、御教授をお願いいたします。

※明治二十二年度 浜脇村

村税・元村役所費・小学校費・共有金 受払仕訳書  
(大分県立図書館所蔵) (写真も同上)



元戸長は七月二十九日の日付で高橋猛哉となっている。  
 (元士族・別府町助役・家具類・玩具類の販売商)

この受払仕訳書の最終頁に村会議員名簿と思われる記録が残っている。

詳しい仕訳内容の頁もあるが、その項はしつかり楷書で記帳されているので今回は割愛し、くずし字の頁のみを選出した。推測をかなり交えたものではあるが、確認に近いものが得られた部分もあるので、史料画像と共に御覧いただきたい。

一 学校職員・授業生・伍長の記録

Handwritten ledger page with vertical columns and cursive text. The text is written in a dense, cursive style. The columns are separated by vertical lines. The text appears to be a list or record of school staff and students.

Handwritten ledger page with vertical columns and cursive text. The text is written in a dense, cursive style. The columns are separated by vertical lines. The text appears to be a list or record of school staff and students.

記

学校職員 校長兼訓導

一金拾円 仕月給 内田孝次郎

授業生

同 三円 木浦文助

雇授業生

同 二円五十銭 ●●●

同 一円七十五銭 釘宮高市

同 一円七十五銭 清水常一

同 二円五十銭 穴見ノブ 以上

筆墨●料 穴見ノブ ●●●●● 金五銭以上

伍長 組長 ●●●●●

一番伍長 糸永庄太郎 二番同 荒金幾太郎

三番同 森 米吉 四番同 家近杉太郎

五番同 義沖儀蔵 六番同 末友蔵吉

七番同 首藤喜八 八番同 佐藤左市

九番同 葛城源吉 十番同 永井綱五郎

十一番同 山田卯作 十二番同 荒金寅吉

十三番同 永井金治 十四番同 長井彦市

以上 十四人

明治の頃の史料である為、耳慣れない言葉も多々みられるようである。私自身専門的な用語も全く知らなかったので一つずつ調べていく他なかった。少しは判読が出来たので拙い知識ではあるが、簡潔に語彙の解説も加えてみたので照合しながら読んでいただくと判り易くなると思う。

まず、訓導とは現在の教育法令というところの教諭と同等の職にあたり、校長と教員を兼任していたということになるのだろう。

給与に関しては時期にもよるが一円が現代の二万から、三万程度の価値があったことを踏まえると二十四、五万といったところか。

次は授業生に関して。授業生という生徒としての印象を持つてしまうが、戦前は教員免許の有資格者確保が非常に困難であり、無資格者で代用することも多く、そういった教員を授業生や雇教員と表記していたらしい。教員免許を取得する為には師範学校（戦前に存在した教員を養成する学校）を卒業しなければならなかったが、その数は十分ではなかった。故に当時の学校現場では無資格者を採用せざるを得ない状況におかれていた。しかし、給与はやはり有資格者とかかなりの差があったようだ。

授業料も明治三十三年に尋常小学校での免除、無償化が規定されるまでは徴収されていたようで、義務教育であった尋常小学校でも平均十銭から十五銭ほどかかり、高等小学校になるとさらに高額であった為、特に地方の農村地区などは家計への負担が厳しかったようである。

このことから当時は学校へ子供を通わせることが出来る家Ⅱその地域の有力者の家系が中心であったといえるのではない。伍長という表記は江戸時代の五人組制度を引き継いだものらしく、廃藩置県後でも浜脇村には行政の制度の一つとして残っていたのかもしれない。伍長に選出されている者は確かに浜脇村の有力者だったようだ。

「苦学」という言葉は今ではあまり耳にしないが、この時代には学校へ行きたくても叶わなかった子供達も多かったのではないだろうか。私自身は世代的にも既に十二分に教育環境が整った時代に生まれ育ったにもかかわらず、この歳まで学問を疎かにしてしまっていた。

こういった史料を調べていると当時の状況に触れることが出来る上、よく見えてくる。改めて史料の価値や大切さを思い知らされる。たとえ時間を費やしても、知ることが出来てよかったと感じる貴重な瞬間である。

## 二 浜脇村村会議員

浜脇村の村会議員名簿に関しては冒頭にも述べたとおり自身見たことがない。別府村のものは大分県立図書館所蔵の「明治二十一、二十五年速見郡別府村村会議員名簿」が存在する。

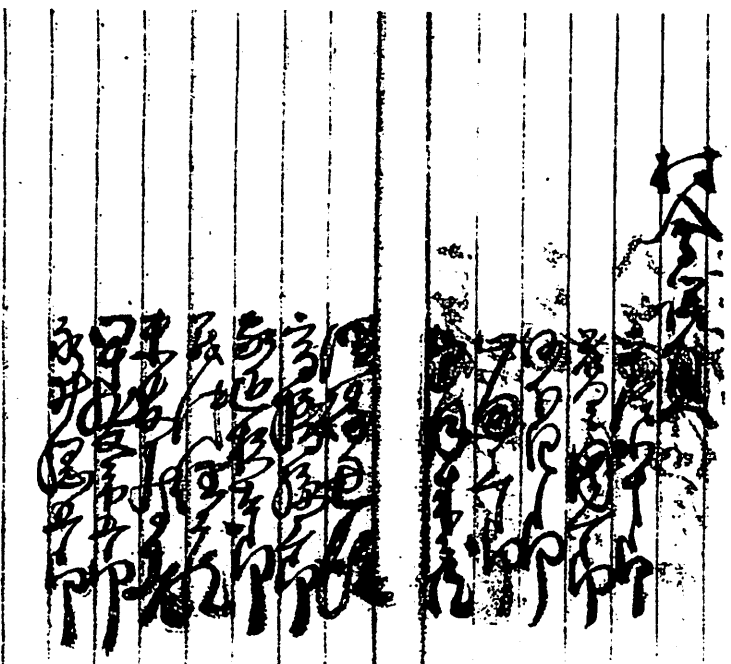
二十二年は十八名、二十五年は十五名の名前が連ねてあり、生年月日も登録されている。後に別府町町長を務める日名子太郎や高倉駒太の名も見られる。現代仮名遣いで記録されているので非常に判り易く、書写するのさほど時間がかからなかった。書写しながら浜脇村の議員記録はないものかと考え、探してみたが該当するものが意外にも当たらない。というより、この史料を見落としていたという言い方が正しいだろう。

くずし字や古文書が全く駄目だった為、目を通していてもかかわらず最初からまともに見ていなかったのだ。

わからないということは時に大きな損失を被るものだとつくづく思った。もし、この史料を読み解いてみたいと思わなければずっと気付かないままだったかもしれない。

謙虚に学ぶ気持ちを決して忘れてはならないと強く自分に言い聞かせ、判読を試みることにした。

この史料を初めて見た時は正直何がなんだかさっぱり解らなかつた。俗に言うミミズが這つたような字で、知識がなければ先ず読めない。辞典と格闘しながら記されている人物に關して出来るだけ調査してみた。足りない部分もおおいにあると思うが僅かでも参考になれば幸いである。



村会議員

平尾十二郎 (質屋並醤油製造・布屋・別府銀行初代頭取)

荒金周一郎 (南小学校教職員 明治十七、十八年)

河下四郎 (浜脇町町長・河下医院)

山田三郎 (浜脇町町長)

穀物諸問屋並味噌酒麴売捌所)

望月来蔵 (汽船問屋並上等菓子製造)

濱崎丑治 (浜脇町町長)

入湯御宿並清酒卸売西洋酒売捌・登佐屋)

高橋孫三郎 (浜脇町収入役・入湯御宿・泉屋)

家近杉太郎 (入湯御宿並清酒売捌・塩久)

義沖儀蔵 (詳細不明・浜脇の吾妻屋義沖家縁戚者か?)

末友蔵吉 (詳細不明・別府町町会議員に末友廣太・浜脇出身の記録あり縁戚者か?)

出身の記録あり縁戚者か?)

甲斐市五郎 (詳細不明)

永井綱五郎 (詳細不明・浜脇の漁家永井家の縁戚者か?)

以上の十二名が、当時の浜脇村村会議員であると思われる。議席がどれほどあったかも調査不足の為未詳であり、これが浜脇村の議員全てであるかどうかともわからないが、浜脇の歴史研究を続けていく上で、非常に貴重な史料であるといえる

だろう。

浜脇は豊後国朝見郷に属し古代より温泉郷として栄えてきた。浜脇という名の初見は建久七年に大友軍が豊後国に速見郡浜脇浦へ上陸することの記録より始まり、江戸時代は横灘四ヶ村の一村として明治二十六年まで浜脇村、続いて浜脇町となり、同三十九年別府町と合併し大正十三年より別府市の大字となった。

その長い繁栄と衰退の歴史の中で史料が散逸し、どれほど失われていったかを思うと非常に残念でならない。だが多くの研究者の努力のおかげで新たな史料の発見や、掘り起こしが叶ってきたという素晴らしい事実もある。

あきらめず、探求し続けることは容易ではない。しかし僅かな、小さな発見が大きな扉を開くきっかけとなるとところに歴史研究の醍醐味があるといえるだろう。

村会議員の詳細調査も当然ながら、現在は幕末頃の浜脇村の湯株保有者の屋号に焦点をあて、史料探求の真つ最中であります。機会があればまた書きたいと思えます。

今回も未熟ではありますが、記事を書かせていただき、諸先生方、会員の皆様に謹んで感謝申し上げます。

## 参考文献

- 書写年不明 写本 弘安岡田牒（平林本）
- 明治二十年 「豊後国別府村濱脇村諸用案内記」  
編纂人 新田長松 出版人 西瀬平
- 明治二十二年 「大友能直公御一代記」  
著作兼発行者 加藤賢成
- 明治二十二年 浜脇村村税・元村役所費・小学校費・共有金  
受払仕訳書  
記録者元戸長 高橋猛哉
- 明治二十二、二十五年 速見郡別府村村会議員名簿
- 明治二十九年 「大分縣豊後国速見郡濱脇町温泉場之圖」  
著作者兼発行 二宮庸平、宇戸高市
- 明治三十一年 「豊後温泉案内」  
著作者 安部貞一 出版者 斉藤彌之吉
- 大正三年 「別府町誌」 別府町役場
- 昭和五十三年 「くずし字解読辞典」机上編  
編者 児玉幸多 発行者 近藤安太郎
- 昭和五十五年 「南小学校百年史」
- 平成十三年 「天領横灘ものがたり」 著者 入江秀利
- 平成二十一年 「懐かしの別府ものがたり」 著者 小野弘